

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北海道教育大学

1 全体評価

北海道教育大学は、「人間と地域の成長・発展を促す大学」として、教育研究の質的転換を実行し、社会が求める課題に積極的・能動的に取り組む学生を育てる責務を果たすことを目指している。第3期中期目標期間においては、高大接続を見据えた入学試験改革、“新たな学び”に対応するためのアクティブ・ラーニング、ICT教育等を取り入れたカリキュラム改革や、大学院改革断行による教職大学院の充実及び教育委員会等との連携協力関係の深化による研修の大学院レベル化、「グローバル教員養成プログラム」の着実な遂行によって小学校英語の授業を確実に実施できる教員の養成等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生や学外者の意見を取り入れた教育課程改革を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教員養成を担う大学教員の実践的指導力を育成・強化するための研修プログラムを実施した結果、学校現場での経験を経た大学教員の割合が29.1%となっており、中期計画に掲げる100%に向けて計画が順調に進捗している。（ユニット「教育研究及び大学教員の資質向上並びにカリキュラム改革のPDCAサイクル確立を含む総合的・抜本的教員養成改革」に関する取組）
- シドニー工科大学（オーストラリア）の附属語学センターへの学生派遣短期研修プログラムやを新たに開設するとともに、外部機関が実施する海外派遣プロジェクトにも採択されるなど、留学生の派遣・受入れの拡大を図るためのプログラムの実施を進めており、平成28年度の海外派遣留学生は124名と平成27年度の75名の約1.7倍となっている。（ユニット「グローバル化に対応できる教員の養成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学内弁護士の採用による法務対応体制の強化

大学の業務運営に関わる法務全般について支援し、法的な諸問題に迅速に対応するため、高度専門的な業務を担う常勤職員として、学内弁護士（リーガルアドバイザー）を採用・配置している。このことにより、訴訟・トラブル等の課題対応の早期化や契約書作成・学内規則改正等の業務遂行の迅速化が図られている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 寄附金の獲得に向けた取組の実施

平成28年度税制改正に対応した「経済的理由により修学困難な学生に対する修学支援事業」を新設するとともに、ファンドレイザーを活用して北海道内の企業延べ約220社及び個人約50人への寄附依頼を行うなど、基金獲得に向けた積極的な活動を展開した結果、中期計画に掲げる「寄附金3,000万円以上の獲得」の約72%に達する約2,168万円の寄附を獲得している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学生の目線を取り入れた広報活動の展開

学生の目線から大学の魅力を伝えるため、大学ウェブサイトやSNS・広報誌を定期的に見直し、大学の広報担当者に意見を報告する「広報学生モニター」や、SNS・広報誌のための取材や原稿作成を行う学生スタッフの参画を得た広報活動を展開している。学生スタッフの取材に基づき作成されたSNS記事に対しては広報学生モニターから好評を得ているほか、学生同士のつながりで記事が拡散されるといった効果が得られている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地域のニーズをくみ上げる仕組みの導入

地域のニーズをくみ上げ、地域と大学との協働により地域課題を調査し、その課題の解決策の策定を行い、実施・検証するための仕組みとして学生も参加して実施するソーシャルクリニックを立ち上げており、具体的な活動として「まちづくりカフェ（地域支え合い講演会・意見交換会）」を年6回開催（延べ263人参加）しているほか、江差ソーシャルクリニック事業において寄せられた意見に対する解決策として高齢者や若者が集い意見交換できる「物づくりカフェ」を企画立案している。

○ 学生や学外者の意見を取り入れた教育課程改革の推進

ステークホルダーの声を取り入れた教育課程改革を実行するため、地域の教育関係者からなる「教員養成改革推進外部委員会」と構成員13名に8名の学生を含む「学生の意見を取り入れた授業・教育課程評価委員会」を設置している。「教員養成改革推進外部委員会」からの受講の順序性やカリキュラムの構造に関する意見を受けて、「学生の意見を取り入れた授業・教育課程評価委員会」において得られた意見も取り入れて改革案とし、平成31年度に開始する新たな教育課程の編成に取り入れることとしている。